



「会員を教えてあげたい・教えてほしい」

— 「第4回 朝市」の開催 —

朝市が7月27日（土）清掃活動後行われました。暑い日でしたが29名が参加しました。会員間でも知らない人（忘れた）も多く、また一度も話したことが無い人が多くいることを知り、朝市は、この状況を少しでも解消できればとの思いで実施しています。

ルールは、くじびきで3人組をつくり、3人でお互いに自分の事を知ってもらい、聞いたことを他の人に紹介してもらうものです。3人の話し合いの時間が、想定より多くかかったことにより、目的を達成した感を得ました。主な他人紹介は次のような内容でした。

ドラマのような話・学生時代の知り合いが市民大学で再会

元気印・仕事を辞めてやりたいことに集中

シルバーによる作業楽しんでいる

悩み・四十肩（？） 座骨神経痛治るか心配

皆さん、生き生きと話をされていました。多くの会員の協力と野菜などの提供により、楽しく親しみのある朝市となりました。



他人紹介中



野菜等の受取

野菜など提供者より一言

セキちゃん：今年は鈴虫3ケースです。飼育難しいので説明書見て可愛がってください。

ウエちゃん：畑作業ができる内は応援します。

ウツちゃん：今年のスイカは、冷蔵庫に入る大きさのものにしました。

クリちゃん：さくら病院の近くの畑でやっていますので、お立ち寄りください。

シブちゃん：異常気象により、野菜に色々な影響がでています。

東武野田線の成り立ち

現在の東武野田線の歴史は、野田醤油醸造組合より、醤油の運搬を舟運に頼るだけの交通の不便さを訴えられたため、明治45年（1912）に千葉県営鉄道野田線として、野田町駅（現・野田市駅） - 柏駅間が開業したことが始まりである。さらに、千葉県当局が路線維持を前提に、県営鉄道の払い下げを行う方針としたことで、大正10年（1921）に千葉県野田町の財界人が中心として北総鉄道株式会社（1972年に北総開発鉄道として設立されている北総鉄道とは無関係）が設立された。その後、北総鉄道株式会社は、翌年大正12年（1923）、千葉県営鉄道から野田町～柏間を譲り受けて営業を開始し、大正13年（1924）に柏～船橋、昭和4年（1929）9月に野田町～清水公園、同年11月に粕壁～大宮が順次、開通している。

路線の進展に伴い、下総北部にとどまらず、下総および武蔵にまたがるようになったことから、昭和4年（1929）11月に北総鉄道から総武鉄道に社名が改称されている。さらに、江戸川、庄内古川、古利根川、国道4号線を横断する難工事であるために、最後に残っていた清水公園～粕壁が昭和5年（1930）10月に開通した。このことにより、柏～大宮間の直通電車が運行されることとなった。

当時、乱立気味であった日本の交通機関は、他社との競争や昭和恐慌による経営悪化を招いたことから、利便性の低下による弊害が発生しつつあったため、地方鉄道の買収・合併が推進されることにより、東武鉄道と総武鉄道が昭和19年（1944）に合併、その後東武鉄道に吸収合併された。開業の経緯から、当初は大宮駅 - 柏駅間が野田線、船橋駅 - 柏駅間が船橋線と別路線であったが、1948年（昭和23年）に野田線に統合され、その後、船橋～大宮間の直通運転が行われることとなった。

昭和5年（1930）10月の開通時には庄和地域に駅が設置されず、その後同年12月6日、新宿新田に①武州川辺停車場、翌年昭和6年（1931）8月、大袈に②南桜井停留場、昭和18年（1943）11月、米島に③米島仮停留場がそれぞれ開設された。このうち、南桜井停留場は南桜井村や村民による寄付金で実現したものである。昭和30年（1955）ごろには武州川辺停車場と米島仮停留場が廃止され、米島仮停留場跡地に南桜井停留場を移転し、現在の南桜井駅となっている。現在の駅は、昭和58年（1983）2月に橋上駅舎化に伴って、建設されたものである。（出典：ウィキペディア、庄和町町誌）



図 庄和地域鉄道駅の変遷

周辺施設のご紹介 大風文化交流センター（愛称：ハルカイト）

令和6年8月1日にオープンしました「愛称ハルカイト」は公募の95作品の中で、「春日部の凧」であることから春（春日部）と凧（英語カイト）の意味合いを込めて決定されました。地域住民の交流と春日部が誇る大風あげの歴史や、生活文化を伝えるために、平成31年3月で廃校となった旧宝珠花小学の校舎を、新しく活用するために改装され、小学校時代の面影がいたるところに感じられます。



1階の宝珠花サロンには、旧宝珠花小学校、旧富田小学校のメモリアル展示として、校旗や校歌等が飾られ、卒業生にとって、とても懐かしい貴重な資料があります。2階に上がる階段の壁、2階の廊下の壁には、古い貴重な「凧」が飾られています。教室内には、原始古代の展示や、当時の子供たちが実際に使用していた、机やイス、トロフィーが並び、当時の人々の生活を知ることができます。また、「あけてみよう！宝珠花小学校の遺産」と書かれている、3つの箱がありました。開けてみてはいかがでしょうか？多くの方が施設を利用し、古い歴史に触れながら、楽しい文化交流の場となるでしょう。



クビアカツヤカミキリ発見

6月22日（土）、さくら公園・桜並木の清掃活動中、埼玉県生態系保護協会の三好あき子支部長が、バラ科の樹木に寄生し、幼虫が樹の内部を食べることで、木を枯らしてしまう、外来の「カミキリムシ」であるクビアカツヤカミキリを発見しました。春日部市で成虫が発見されたのは、初めてだそうです。今まで、2013年草加市、八潮市で被害が確認され、2017年には、北は杉戸町、南は越谷市まで拡大してきました。三好支部長は、遺伝子を調べると、ある程度のことかわかるので、研究している専門家に送られたそうです。

日本では、2012年、愛知県で最初の被害が確認され、その後、埼玉、徳島、群馬県など13都道府県(2023年1月現在)に広がり、2018年1月に国の「特定外来生物」に指定されました。原産地としては、台湾、中国、朝鮮半島などがあげられています。生きたまま持ち帰ること、飼育や販売などは違法とされ、罰則が設けられています。食べた木屑と糞の混ざった「フラス」を、樹脂の表面や、木の根元、枝の分かれ目などで見つけることが大切で、桜の保護に繋がります。

さくら公園でも、会員の皆さんが、フラス発見の調査を行っています。昨年7月26日に初めて、会員により「フラス」が発見され、公園緑地課による対策作業が行われました。根際部に農薬を注入し、成虫拡散ネットを装着された木が、12本ありました。この9月には、新たに10本の桜に保護対策がとられ、22本になりました。

「さくらの花」は美しい景色を作り出し、私たち日本人にとっても、世界の人達にとっても、開花を待ち望まれ、喜ばれ、楽しまれています。

私達も、さくら公園脇の桜の木、350本を守っていきたいと思います。

会員の紹介

「ボランティアは人のためならず」 会員 川崎 由美子

長い間《忙しい》を言い訳に、周りや地域にお世話になってばかりいました。仕事を辞め、ようやくいくらかでもお返しが出来たらと思ったものの、何が出来るのか、何をしたら良いのか、サッパリ分かりませんでした。そんな時、この『庄和ふる里を守る会』に出会いました。経験が無くても参加できるし、決して強要されないところが、わがままな私にとっても合っています。お花の時期ではなくても、ノンビリ犬と散歩したり、ベンチに座ってお喋りを楽しんだりされている方を見ると、こんな私でも役にたっている♪ とこちらの方が嬉しくなります

メンバーはとても良い方が多く（特に立ち上げ当時からずっと携わっておられる方々には、頭が下がる思いがします）、子供達とお花を植える等イベントも楽しみです。これからも 細〜〜く長〜〜く続けていきたいと考えています。皆で頑張りましょうね！

ご支援を頂いている 団体賛助会員様

* 受付登録順

庄和商工会

(株) 道の駅庄和

(株) 桐の樹環境

金崎区 (自治会)

(有) 庄和商事

関東いすゞ自動車(株) 春日部支店

庄和中央病院

埼玉みずほ農協 庄和中央支店

小笠原医院

上柳区 (自治会)

東武スポーツクラブみなみさくらい

○ 個人会員 (9月1日 現在) 正会員 79名 賛助会員 96名

「NPO法人庄和ふる里を守る会」からの報告

1. 当会発足から7回ほど開催しました「庄和の自然を学ぼう」の講師を務められ、会報誌の8号から16号まで「話の種子」を寄稿して頂いた、小沢啓男さんが9月に逝去されました。当会の活動に多面的にご協力を頂きましたことを深く感謝し、ご冥福をお祈りします。
2. 春日部市市民活動センター「ぼぼら春日部」のHPに当会の会報や活動の状況を掲載しています。この会報が届くころには、曼殊沙華の写真が掲載されていると思いますので、是非ご覧になってください。



【編集／発行】

NPO法人庄和ふる里を守る会 「ふる里庄和」編集委員会
〒344-0121 春日部市上柳183
(TEL) 090-7903-3971